

令和7年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

日 時	令和7年7月8日（火）午前10時～午前11時30分
場 所	羽島市役所301会議室
出席者	<p>生涯学習都市推進会議委員出席者18人欠席者1人、代理出席1人</p> <p>松井 聡 委員 市長 小森 博昭 委員 スポーツ推進会議代表 中山ゆりえ 委員 PTA連合会代表 堀 登司仁 委員 社会教育委員代表 岩田 睦巳 委員 小中学校長会代表 高橋 範行 委員 高等学校代表 岩田 明 委員 自治委員会代表 小林 美雪 委員 学識経験者 近藤かよ子 委員 学識経験者 益川 浩一 委員 学識経験者 國枝 篤志 委員 副市長 森 嘉長 委員 教育長 三輪 弘司 委員 健福祉部長 國井 真美子 子育て・健幸課長 熊崎 房子 委員 健福祉部子育て・健幸担当部長代理 堀 一男 委員 産業振興部長 小川 剛矢 委員 障がい者支援団体代表 浅野 弓子 委員 公募委員 田谷由紀子 委員 公募委員</p> <p>事務局</p> <p>伊藤佳津子 市民協働部長 丸山 靖生 生涯学習課長 富田 修平 市民協働課長 柴田 泰宏 スポーツ推進課長 番 重宗 図書館長 児山 章浩 学校教育課長 浅野 貴久 危機管理課長 吉川 徹 生涯学習課課長補佐 牛田紗耶香 同課係長 辻 朝子 同課主任</p>
内 容	<p>1 委嘱書交付</p> <p>2 会長あいさつ</p> <p>3 意見交換 羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画に基づく令和7年度の主な取り組みについて</p>

令和7年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	4 協議 次期羽島市生涯学習都市づくり5カ年計画の全体像（案）について
意見交換	<ul style="list-style-type: none"> ・資料に基づき生涯学習課長より説明 ・会長の進行に基づき、各関係委員および事務局担当部署から各項目について補足説明
1. 家庭 P3・資料1	
委員	未就園児を対象にした「こども誰でも通園制度」は、実施をすることによって、他のお母さん方と意見を交換しながら生活できて、少しゆとりのある生活ができると思う。
会長	「こども誰でも通園制度」は羽島市以外にも手がかけるところがあるが、先進事例として行う予定である。この制度の内容について深掘して説明願う。
委員	普段、保育園やこども園は、働いていたり体に障がいがあったりして、子どもを見られないという理由で、入っていただくところだが、この制度では、月に何日かという決まりはあるものの、理由を問わず子どもを預けることができる。たくさん受け入れができるかどうか、今後の課題になる。現時点でも、一時預かりということで、理由を問わず保育園に空きがあれば子どもを預けることのできる制度はあるが、そういった制度をもう少し本格的にした制度ということになる。
委員	小さい子どもを預けるということに対して、どうしても人に任せるとをよしとしない、楽をしたくて預けていると取られる方がいる。申し訳ないと思って預けてしまうと、使いにくいものになると思うので、この制度が広がることで、子どもが小さいうちから社会に出ることはプラスになることもあるということと一緒に広めていただくとよい。子どもは社会が知れて、お母さんは一度自分のことができ、子どもが戻ってきたら優しくできるというサイクルがうまく回った方がよい。
会長	女性の活躍や就業拡大、男女共同参画全てにつながる制度がこの「こども誰でも通園制度」になる。今後実施していく中で、指摘いただいたような形で、事前のPRをしっかりと行っていく。また、出産直後から保護者と保健センターが関わる機会があるので、そういった場でもPRや説明をしていく。
2. 青少年 P4・資料1	
会長	今後、方法を分けながら市内3ヶ所で教育相談の拡充を図っていく。また、いじめ防止対策については、専門委員会を設けて、協議をお願いしたところである。不登校対策については、青少年問題と捉え、青少年

令和7年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>の健全育成の現状と問題点を皆様方にご理解いただけるような形で進めていくために段取りを行い、実行している。このことについて、補足説明を願う。</p>
委員	<p>まず、不登校の状況について、令和6年度は、令和5年度から継続して不登校の子どもは減ったが、新たに不登校になる子どもが、例年に比べて増えた。継続して不登校の子どもが減ったのは、「こだま」や「のぞみ」、あるいはメタバースを活用した支援の効果だと思う。一方、新たに不登校になる子どもについても、6月1日現在では、令和7年度は令和6年度に比べ、小・中学校とも不登校の子ども数は減ってきている。羽島市教育委員会は不登校を問題行動とは捉えていないので、人数をあまり問題にはしたくないが、一つの指標として見ると、良い傾向にあると思う。</p> <p>最近よく言われる言葉に、「多様な学び」というキーワードがある。学校に行きにくい子どもたちや、障がいや発達に特性のある子どもたち、あるいは外国にルーツのある子どもたち、また、他の子どもと違う特異な才能を持つ子どもたちなど、多様な学びへの対応の一つとして「のぞみ」や「こだま」、「あさひ」がある。これは、子どもたちが生涯学習の基礎を培っていくという観点で非常に重要である。</p> <p>また、魅力ある学びができる学校のために、学校の取り組みとして大きく3点ある。一つは幼保小の連携である。幼稚園や保育園、こども園から小学校へ行くときに、4月に学習環境や集団の環境が変わるが、変化をできる限りなだらかに円滑にできるようにと、各小学校が取り組んでいる。例えば、1日の始まりを、勉強ではなく遊びから始める、あるいは算数や国語は5月から始める、あるいは45分の授業は長いので、20分や15分の授業を取り入れるというような取り組みをして、子どもたちにとってふさわしい学びを展開している。</p> <p>もう一つは、例えば運動会を年1回ではなく、春と秋に2回に分けて行うなど、行事の見直しを行っている。</p> <p>三つ目に、先生と生徒の人間関係について、相談しやすい先生に話ができるように、また、先生も学級の子もだけでなく、学年の多くの子どもを見ることができるよう、日によって担任が変わるチーム担任制、学年担任制を、中央中学校ではこの4月から取り入れている。</p>
委員	<p>「男女共同参画社会の実現」の小学生以下の子どもたちも手に取りやすい家庭用リーフレットの作成について、具体的に説明願う。</p>
事務局	<p>令和7年度からの新規事業である。これまでは成人向けの男女共同参画プランの本編に加えて、中学生向けのリーフレットを作成していた。プラン策定の際に、より下の世代、特に幼稚園保育園の子どもたち、ま</p>

令和7年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>たその家族が一緒に男女共同を学ぶリーフレットを作成してはどうかという意見をプラン作成の会議の場でいただいて作成している。</p> <p>案の段階だが、例えば子どものランドセルの色について、男の子だから黒や青、女の子だからピンクや赤なのかということを経材にして、女の子が青色を選んでも良いというような、身近なことをリーフレットにまとめる。イラストも多くし、男女共同参画を知るきっかけになるリーフレットを作ること考えている。</p>
委員	<p>小学生やその下の子ども、保護者を巻き込んでの取り組みは、とても良いと思う。「生涯学習に関する市民アンケート」の19ページに、生涯学習の妨げと考えられるのは、「時間に余裕がない」が高い割合となっている。アンケートからは、高齢者は生涯学習への関心が非常に高いが、子育て世代や働き盛りの世代は、意識はあるけれども一歩踏み出せないということも読み取れる。このリーフレットも、子どもを通じてそういった世代の方に働きかけていくという点で、価値あることだと思う。</p>
委員	<p>「教育相談の充実」のところにあるメタバースを取り入れている話を娘にもしたが、良いねと言っていた。ただ、今使っているタブレットを、もう少し使いやすくしてもらえるとありがたいと言っていた。</p>
委員	<p>男女共同参画のリーフレットについて、内容に中学生がキャリアを考えたり自分の今後の未来を考えたりすることと絡めて男女共同参画のことを考えるような内容、ライフデザイン的な視点が入っていると非常に良いと思った。</p> <p>「教育相談」のところでは、メタバースも取り入れてなるべく敷居を下げて、子どもたちが使いやすい形を工夫しているのは非常に良いと思う。何かをそこでするというよりもそこに行けば誰かいて居心地が良いという居場所づくりの取り組みが必要で、気軽に行きやすい場所を考えていくと良いと感じた。</p> <p>「体験活動の充実」のところでは、各種団体の協力を得て、様々な取り組みを進めていることを素晴らしいと思う。「地域における学び」とも絡んでくるが、地域で協力する方から見れば、自分たちが学んだ成果や特技を子どもたちの育ちや学びに生かす生きがいづくりの場でもあり、子どもたちと活動しながら他の大人たちとつながるつながりづくりの機会でもある。ぜひこの仲間同士をいかに増やすかということに苦心いただきたい。</p>
3. 地域における学び P4～5	
会長	<p>先日自主防災組織リーダー研修会には、約80名の方がお越しになった。羽島市は先進的に防災士を養成する事業を行っており、市内で約300名が登録をされている。そのような前進的な部分もあるが、各種講座を</p>

令和7年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>地域で例年行くと経年疲労があつて、講座に集まる方が少なくなったり、高齢者の方に偏ったりと課題もある。</p>
委員	<p>先日、福寿小学校の放課後子ども教室でお雛子の発表会をしてもらった。保護者の方が「他の地域から福寿町に転入してきたが、こうしたお雛子などを子どもの頃から教えてもらい体験させてもらえるということは、本当に価値あることだ」と言われ、放課後子ども教室が地域づくりの一つを担っているということを感じた。今後も放課後子ども教室を充実させてほしい。</p> <p>また、出前講座について、先日選挙の投票箱と選挙の間仕切りを借りて、6年生が投票体験をさせてもらった。子どもが最後に「一番近い選挙は何か」「家族と一緒に選挙行っても良いか」と言った。講座や市で提供していただけるいろいろな学びを、学校はもっと活用しないといけないと考えている。</p>
委員	<p>先日自主防災の関係で研修をされたが、まだ備蓄が十分ではないことが気になった。市の広報などで、食べ物等と汚物の処理の備蓄を各家庭で徹底していただくよう周知していただきたい。自助公助の公助は、災害が起こってから10日～1ヶ月後に初めて人々に届く。まずは自分たちで生活、命を守っていくことを、市民に徹底していただきたい。</p>
委員	<p>近年、特殊詐欺やSNSによる被害が多く、講習会を岐阜県警で熱心にされている。高齢者や障がい者、特に山間地では情報が入ってこないことにより、被害が非常に増えている。特殊詐欺の講習会も、ぜひ入れていただきたい。</p>
会長	<p>頻回ではないが羽島市内でも特殊詐欺に遭われた高齢者のニュースが新聞報道される場合がある。また今は被害が低年齢化して、SNSでの芳しくない事案が発生している。</p> <p>常に、市長、教育長と警察当局あるいは専門組織との間で情報交換をしているが、市の広報媒体等においてもより一層の啓発に努めるとともに、出前講座でも、こちらの方からテーマを提案して地域にお邪魔するような体制もとっていく。</p>
<p>4.生涯スポーツ P5～6</p>	
委員	<p>飛騨市古川では、ねんりんピックのキックオフプレーが、知事を迎えて行われた。羽島のねんりんピックは盛り上がり欠ける。全国から来る選手の方に、羽島では力が入っていないことを印象づけるようなことにならないよう、もう少し盛り上げてほしい。</p>

令和7年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

会長	<p>羽島のねんりんピックの関係で参画をいただく役員を中心とした脳トレ体操教室を、通算3回行った。類似のものが多く、マスコミに載ることはないが、努力はしている。また併せて県庁担当部局が羽島市を訪問され、更なるねんりんピックのPRをするイベントも近々行われる。羽島市はゲートボールを受け持っているので、間近になればご指摘の通り、より一層のPRをしていく。</p>
委員	<p>パラスポーツ推進の関係で、前にフライングディスク教室を開催したことがあったが、1回で終わってしまった。全国スポーツ大会の基本競技でもあるので、ぜひ取り入れていただきたい。</p> <p>また県のスポーツ関係機関連絡会議で、7月に様々なパラスポーツの競技団体のポスターを作る。各スポーツ団体のインスタグラムで活動を見られるようになったので、各市町村等においてはポスターを活用し広めていただきたい。</p>
会長	<p>パラスポーツの推進については、市民協働部で推進活動をお願いしたい。またボッチャを特に優先して、大会等を特別支援学校で行っている。ご指摘の種目についても、今後そういう形でのPRに努めていく。</p>
5.文化 P6	
委員	<p>歴史民俗資料館は、映画関係のものがあるということが全国でも珍しいのもっとPRしてもらいたい。</p> <p>また、文化協会が高齢化して、継承する人がいなくなってくる。お囃子は場所によっては小学生に参加してもらっている。こういった工夫でより活発にしていきたい。</p>
委員	<p>文化継承に関わる中で、後継者の方や未来にどうつないでいくかという話はいつも出る。古典的な部分もそのまま伝えたいが、若い人たちの考えを上手に取り入れて新しい改革をするということも大事である。私たちは橋渡しをする立場でもあり、進化もしていかななくてはならないと思う。</p> <p>また、竹鼻まつりは竹鼻の方はよく知っているが、他の地域は知らない。羽島市の中で大切なものなので、子どものときから触れ合い、大人になっても続けることで、大切さを学んでほしい。高齢者の方が多く、継承する方や技術が減っていくというのを目の当たりにしているので、少しでも橋渡しができるように力になればと思う。</p>
会長	<p>伝統芸能の関係では、隣の笠松町も一緒になって毎年文化センターで発表していただいている。また高齢者を含め、様々な文化的行事の愛好会の発表会もあるが、自分の演目が終わると帰ってしまう。他のグループの発表を鑑賞される機会があまりないので、そういう場でお互いが励</p>

令和7年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>まし合って競い合う行事にしたい。</p> <p>歴史民俗資料館では映写会を行うが、以前のようにフィルムが残っていない。有料で来場する方は大体数が決まっており、次に何を上映するか厳しい時代になっているが、本当に素晴らしい資料があり、全国的にも発信できる。歴史民俗資料館や竹鼻町屋ギャラリー、佐吉仏などを観光と学習の場として、これからも活用していく。</p>
委員	<p>羽島高校は、日ごろの教育活動の中で羽島市とつながりがある。今日の会議でも「青少年」や「地域における学び」など、連携をさせていただくことが政策として出されているので、またお世話になりたい。</p> <p>羽島市では駅前フェスなどいろいろと高校とボランティア等連携しているが、竹鼻まつりにも羽島市内の出身の生徒がたくさん来ており、藤まつりなど昔からの取り組みを大切にされており、とても素晴らしいと感じる。また、羽島高校は数年前からイタセンパラの保全のPR活動に力を入れていて、今年もアクア・トトぎふの館長にイタセンパラの講義を行っていただく。また、FC 岐阜とも連携しながらイタセンパラのPR活動に力を入れている。引き続き協力をしていきたい。</p>
6. その他支援 P7	
委員	<p>「情報提供の充実と整備」の取り組みは、昨年にはなかったことでとても良いと思う。アンケートの自由意見の中でも、20代女性、40代女性、60代男性が図書館について記述されている。</p> <p>アンケートを見て、限られた予算の中でいかに市民のニーズに応じて施策に取り組んでいくかが、本当に難しいと感じる。アンケートの結果や市民の意見を汲んで、今年度の取り組みを作られたことを非常にありがたいと思う。</p>
委員	<p>私もいろいろな役をさせていただき、自分自身の勉強になっている。難しい問題、やさしい問題もあるが、やはり皆で協力し合わないと実行していくことができないと思う。</p>
会長	<p>先般行った自治委員会総会で、回覧板が遅い地域だと、最初のお宅から最後のお宅まで1ヶ月かかるという事案もあがった。アプリを利用して回覧板を確認するための講習を、自治会総会でやっている。</p>
協議	<p>・資料に基づき、生涯学習課担当より説明</p>
会長	<p>まず基本理念から施策の方向性は、市の地方自治法に定めている総合計画と同じようなつくりになっていることをご理解いただきたい。そのような観点から基本理念と、二つに分けたその後の基本方針についてご意見願う。</p>
委員	<p>基本理念と基本方針の内容には、日頃市長がよくお話される「学習」</p>

令和7年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>から「学修」への進化があると思う。知識の受け手ではなく、自ら課題を発見して解決する力を持つ「学ぶ主体」の育成を通して、人と地域を豊かにするという人づくりへの想いがあると思う。もう一つ「記録から記憶の形成」という言葉もよく言われていて、単なる出来事の記録ではなく、市民の心に感動を与えていくという思いを、お話を聞いたたびに感じている。この基本理念、基本方針1・2については、そこが包含されている内容であるので、この方向で進めていただきたい。</p>
会長	<p>それでは基本理念、基本方針1・2につきましては、この原案でご承認いただけるか。</p>
	<p>（出席委員承認）</p>
会長	<p>施策の方向性1番は、今の実情に即した自分ごとの学びの推進、施策の方向性2番は、学んだ成果の地域活性化に向けたアプローチとわかれている。この方向性でご承認いただけるか。</p>
	<p>（出席委員承認）</p>
会長	<p>それでは資料4、次期計画の方向性についても、ご承認いただけるか。</p>
	<p>（出席委員承認）</p>
委員	<p>計画づくりには、「あるべき未来像からそれを実現するために何をしたら良いのか」というアプローチとともに、「今現状どういう課題があってその課題解決をしていくためにはどうしたら良いのか」という両方の双方向的なアプローチが必要だと思う。特に前者の、将来像やあるべき姿をまず定め、それに向かって何をしていけば良いかという発想に立つことが大事だと思うので、基本理念が非常に重要だと捉えている。</p> <p>学習教育というどうしても教育権保障や生存権保障につながるが、学習教育を推進することは、幸福追求権の保障でもあるということが、大事なので、基本理念を「生涯学習を通じたウェルビーイングの実現」としていることは非常によい。</p> <p>ぜひ盛り込んでほしい視点をキーワードとしてあげると、一つ目は「成果を活かすこと」である。しっかりと学ぶとことも大事だが、自分が得たものを自分の中に留めるだけではなく、それを他の人にわかり伝えて、成果を還元していくことが非常に大事である。シティカレッジの取り組みがその視点の最たるものかと思うが、そういった意味での生涯学習の重要性をぜひ盛り込んでいただきたい。</p> <p>二つ目は、「絆づくり」である。学び教育というと1人ひとりの能力や力のアップが第一義的には大事だが、一緒に学ぶことを通じてお互いの信頼感・安心感を高めて、個と個の関係性や絆を高めていくことも、非常に大事なことである。そういう視点を持って、計画の施策等を入れ</p>

令和7年度第1回羽島市生涯学習都市推進会議（会議要旨）

	<p>ていただけるとよい。</p> <p>三つ目に、「幸福追求権としての学び」である。幸福追求権としての生涯学習という観点に立てば、いろいろな障壁があり学びにアプローチできなかった、今まで学習教育から忘れられていた人たちへの視点を強く入れてほしいと思う。</p> <p>四つ目のキーワードは、「人々の参画主体性の重視」である。生涯学習の講座は、今まで行政や施設の側が講座をつくり、それを地域の人たちにあてがうという方向性が非常に強かった。これからは人々が既に始めている主体的・自主的な活動に公共性を認めてそれを支援する、という行政のスタンスが学びの中で大事だと思う。</p> <p>最後のキーワードとしては、「連携協働の重要性」である。羽島市は生涯学習の所管が市民協働部であり、この会議自体にも、他部署の部長が出席しているが、このように生涯学習は総合的に進めていく必要がある。自治会やNPO団体や企業など、多様な主体が関わっていくことが、豊かな学びにとって非常に重要だと思う。今の羽島市の総合行政的な現状の方向性を大事にして、ぜひいろいろな連携協働を進めてほしい。</p> <p>これらの「成果を活かす」、「絆づくり」、「幸福追求権としての学び」、「人々の参画主体性の重視」、「連携協働の重要性」というキーワードを視点として持ち、具体的な計画の中身を進めてほしい。</p>
会長	<p>教えていただいた五つの項目を反映した取りまとめをよろしく願う。</p>
	<p>閉会</p>